

2021
秀作

第54回「おかねの作文」コンクール

豊かな暮らしとは

鹿児島県・十島村立平島中学校 2年 新田 真子

ショッピングは自販機で。そんな生活を3年間送る私が、お金の在り方について考えた。

私は、人口約90人の離島に住んでいる。この島には、店が一軒もない。私たちがお金を使う所は、たった2台しかない自動販売機と、野菜が売られる直売所に限られる。そのため、日常で硬貨や紙幣に触れ、使用することが滅多にない。日用品は、インターネットで購入する。

まるで日本じゃないみたいだ。この島に引っ越してくる前、そう思った。便利なコンビニエンスストアも、物にあふれるショッピングセンターも存在しない。物が欲しくなっても、週2便の船が来るまで待たなければいけない。それまで、休日に買い物を楽しんでた私は、不安でしかなかった。しかし、この島に来てすぐに考えは変わった。今の暮らしは、不自由なく快適だ。

この島に来る前、欲しい物を見つけたらすぐに店に出かけ、目当ての商品を迷わず買っていた。しかし、あとでその商品を使ってみると、「これは本当に必要な物だったかな。」

と思うことがあったが、その理由がこの島に来て分かった。気づかないうちに、店に掲げられている「お得です」「大人気」のポップや、他のお客さんの賑わいに流されていたのだ。今までの私は、正しくお金を使えていなかった。物を買う時の満足感はその時だけのもので、心には一つも豊かさが残っていなかった。

この島は、自然が豊富にある。年中様々な鳥の声が聞こえる。また、海や山からのおいしい食材をいただける。海では、トビウオやカツオなどが釣れ、その魚を地元の漁師さんが届けてくださる。山では、春に筍や野いちごが採れ、それらの食材が筍ご飯や野いちごジャムに調理されて食卓に並ぶ。自然の恵みを食べると、贅沢な気持ちになる。これはきっと、お金では買えない気持ちだ。テレビで、お金持ちの有名人が高価な物を買って贅沢な暮らしをしているのを

見たことがある。しかし、この二つの「贅沢」は、意味が違う気がした。

本当の豊かさは、お金だけでは手に入らない。欲しい物を好きなだけ買える人だけを「豊かな人」というわけではない。お金を払って手に入れた物を大切に使う。人との繋がりを感じる。自然の恵みに感謝する。そういった中でも豊かな気持ちは生まれる。何もない島での暮らしが、本当の豊かさの意味を教えてくださいました。人は一生、消費生活を送る。お金を1円も使わずに生活することはできない。この島で学んだことは、これからの暮らしの上で必ず生かされる。上手にお金を使って豊かな生活を送りたい。

この夏、お小遣いと、祖母から欲しい物を買うようにと言って渡されたお金で、高価な電子辞書を買った。周りに流されず、自分が心から欲しいと思った物だ。将来も、きっとこれは役に立つはずだ。この一歩から、私のお金との新しい付き合いが始まる。

